



独立行政法人国立病院機構
 **松江医療センター**
呼吸器病センター
 〒690-8556
 松江市上乃木5丁目8-31
 TEL (0852) 21-6131 FAX (0852) 27-1019
 URL <http://www.hosp.go.jp/~matsue/>
 発行責任者
 院長 徳島 武
 編集者
 事務部長 亀崎 卓夫



松江水燈路

平成15年より始められた松江の秋のイベントのひとつ。毎年9月中旬から10月中旬にかけて、松江城、塩見縄手、北惣門橋、稲荷橋周辺が約400個の行燈等でライトアップされる。

まぐじ

第4回肺がんフォーラムを振り返って.....	2
第3回地域医療連携交流会を開催して.....	3
結核予防会結核研究所の研修に参加して.....	3
医療教育研修室から—医療教育研修室利用のススメ—.....	4
平成21年度「1階・2階・3階病棟合同文化祭」を開催しました！.....	5
しじみ会（七月七夕号・八月夏の号・九月初秋号）.....	5
「島根県筋ジストロフィー在宅療育キャンプ」開催.....	6
独立行政法人国立病院機構中国四国ブロックスキルアップ研修会を終えて.....	6
松江医療センター元気宣言！.....	7
外来診療表.....	8

基本理念

私たちは、真心と思いやりをもって良質な医療を提供します。

第4回肺がんフォーラムを振り返って

呼吸器科医長 **かど** **わき** **とおる**
門 脇 徹



院長開会挨拶

近年恒例となっ
ています『肺がんフォーラム』。今年で数えること4回目となりました。今年は開催時期が例年の7月から9月に変更となりました。それが災いしたのか、他に理由があるのか、いずれにしても例年よりも参

加人数が減ったようです。それでも148名のご来場があったことは皆様の肺がんへの関心の高さの表れであり、我々肺がんを診療する者にとっては身の引き締まる思いでした。今年はトピックスとしてインフルエンザの講演（池田先生）がありました。非常にタイムリーな内容かつ充実した講演で御参加いただいた皆様にとっては実は最も関心度が高く、面白い講義だったのではないかと思います。

さて、私の講演内容ですが、外科治療（目次先生）以外の領域『肺がんの診断と（内科的）治療』というかなり幅広いテーマでした。これを短時間で講演する、というのが私に課せられたテーマだったのです。日常診療の場面での患者さんや御家族に対する説明において、私は“わかりやすさ”をモットーに行っております。しかしながら、不特定多数の一般の方々への“説明”というの



会場内風景

はなかなか難しく、短い時間の中での幅広い内容で講演をしたため、ご来場いただいた皆様にどれだけ伝わったか？わかりにくくなかったか？...講演が終わった瞬間にそのような思いが頭の中に浮かんでは消えておりました...。私の講演を聴かれた方がいらっしゃいましたら、いろいろ御指導・御指摘をいただけたらと思います。

ところで『肺がんフォーラム』も4回を経て、少し色褪せてきたのではないのでしょうか？少しずつ減少している参加人数がそれを物語っていると私は考えます。アンケートの回答にも“参加人数が少なく残念”というコメ

ントもあったようです。事前の宣伝不足もあったかもしれませんが、ご来場された方々の満足度をさらにあげるには、フォーラムの内容そのものを変えていく必要があると思います。勿論、肺癌に関する内容を期待して来場される方がこれだけいるわけですから、肺癌領域について深く掘り下げて講演を重ね続けることも必要とは思



相談の様子

ます。しかし、充実した内容にするためには、来場される皆様の知的欲求・好奇心をさらに満たす内容を加えていく必要があると思います。例えば、現状でも患者数が多く、国内ではさらに患者数の増加が懸念されている気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患などのいわゆる“common disease（ありふれた疾患）”にも講演対象を広げるなどの工夫がいるのではないのでしょうか？『呼吸器病センター』を名乗っている当院ですから、どのような方向性にシフトすることも十分可能でしょう。今後院内での反省とdiscussionが必要な点だと思います。

一般講演以外にも健康測定、肺がん相談を含めて多くの方々に来場していただきました。貴重な休日の午後の時間を当院主催の肺がんフォーラムに割いていただいたことを心から感謝いたします。また、後援・協力をいただいた関係機関の方々にも感謝致します。そして準備・運営に携わった当院職員の皆様、本当にお疲れ様でした。皆様のご健康をお祈りして筆を擱きたいと思



測定コーナー

第3回地域医療連携交流会を開催して

地域医療連携係長 ^{しょうじ} 庄司 さみえ



会場の様子

10月14日（水）松江東急インで各地区医師会の先生方をお招きして第3回地域連携交流会を開催いたしました。医師会の先生方にはご多忙中にも関わらず42名の参加をいた

だきました。

徳島院長から、松江医療センターが医師会の先生方との連携によって支えられている事、またこの会がさらなる連携を図るために有意義なものになるようにとの挨拶があり、交流会は始まりました。



足立神経内科医長

森本松江市医師会長より激励のお言葉を頂戴し、そして当院の神経内科・小児科・外科・内科の医師による各科紹介が行われた後、矢野統括診療部長の乾杯の発声で懇親会が始まりました。今回は、会食の最中に新病棟の



木村呼吸器科医長



齋田小児科医長

紹介スライドや当院のピーアールDVDを流しました。各テーブルでは日頃話せない話で盛り上がり、当院への忌憚のないご意見（お褒めの言葉あり、お叱りの言葉あり）をいただけたことは、大変参考になりました。その後、医師会の先生方より、「患者様を後はお願いしますでは

なく、一緒に診ていくという気持ちで診療を行っていきたい。」また、「松江医療センターを今後も頼りにしている。」と当院への期待と要望を述べていただきました。

あつという間に時間は過ぎ、盛況のうちに閉会となりました。

この機会を通して、松江医療センターを医師会の先生方によりよく知っていただき、これまで以上に医療連携を強め、地域に根差した医療を行いたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



目次外科医長

結核予防会結核研究所の研修に参加して

4階病棟 看護師長 ^{まつおかよしえ} 松岡芳江

平成21年10月6日から9日まで4日間、東京都清瀬市にある結核予防会結核研究所に勉強に行かせていただきました。結核菌の特徴・検査方法から始まり、結核の診断・治療、免疫・QFTについて、院内感染防止対策、DOTS（直接監視下短期化学療法）、そしてコホート分析と最新の結核対策を隅々まで学びました。ここ10年ほどの間に随分と進歩したのだなあと驚き感心しました。

世間では結核に対する認識が薄れてきて過去の病気と思われていますが、テレビCMや芸能人の結核罹患でも注目されているようにいまだに世界中で年間約920万人の新患者が発生し、170万人が死亡している世界最大級の健康問題です。積極的な対策に取り組まないと撲滅出来ません。旧療養所の施設はその役割を担っており結核病棟に勤務する看護師はその中核とならなければいけないと感じました。

結核の治療において重要なことは、きちんと治療させるという事で、長い治療期間のなかで治療中断や再発が無いように医師、看護師、保健師、そして患者さ

んが全員一丸となって取り組む必要があります。患者さんを治癒に導く事が感染の連鎖を断つことにもなります。

今回の研修では、QFT検査の意義と読み方を学び感染症法による結核対策について知見を深める事ができました。当院の結核病床は12床と減少しているので正しい診断と確実な治療を進め、結核病床の在院日数短縮につなげたいと思います。また、世界で繰り広げられているDOTSが人と人のかかわりの中で人を元気にする事ができることを知り、退院後の患者さんの治癒を確認することで入院中の看護を振り返り、患者さんの治癒を共に喜ぶ事で看護師のモチベーションの維持につなげたいと思います。貴重な研修に参加させていただきありがとうございます。



結核研究所

医療教育研修室から

一医療教育研修室利用のススメ

呼吸器科医長・医療教育研修室長 **かど** **わき** **とおる**
門 **脇** **徹**



DVDと文献検索用パソコン

新病棟完成・引越しから約3ヶ月が経過しました。実はあまり知られていないかもしれませんが、病棟移転に伴って医療

教育研修室も前号で紹介した「旧3病棟の空き部屋」から、旧2病棟のスタッフステーションへと移転いたしました！以前の部屋よりも広くなり、中身もとても充実してきました。そして新しくなったのは研修室だけではありません。新しいメンバーも加わったのです！教育担当師長のポストが新たに設置され、杉谷美奈子師長が就任されました。杉谷師長さんには医療教育研修室の副室長も兼任していただいています。

ところで、医療教育研修室のコンセプトは『スタッフ教育に関してコーディネーターであり、かつ知識・技術向上のためのプロデューサーであること』です。もちろんそうあるためにマンユフェストに沿った活動をしているのですが、研修室そのものも医療教育研修室のメンバーにとってだけでなく、病院スタッフの皆さんにとっても使いやすい場所にする必要があると考え、移転して中身を充実させています。

そんな充実した医療教育研修室をぜひ活用してほしいのです！それでは皆さんが医療教育研修室に来ると何ができるでしょうか？以下に示したいと思います。

- ・当研修室発信の講義DVDが視聴可能。もちろん貸し出しも可能。
(今年4月からの講義(呼吸器疾患勉強会・肺癌化学療法勉強会)を記録しています)
- ・看護系の雑誌・図書の検索・閲覧が可能
(図書室から移動しました)
- ・オンラインでの文献検索が可能
(臨床研究部から移管)
- ・大きなテーブルが2つ
(ちょっとした話し合いや研修が可能)

このように学習・研究をするのにとってもいい環境なのです！病棟の仕事(研究など)を持ち込んでいただいでやっていただくことも大歓迎です。

この「研修室機能の充実」は前号の実道湖で示した以下の仮説

- P：医療スタッフ(を対象に)
- E：院内教育の充実(をすると)
- C：従来の院内教育(と比較して)
- O：さらにハイレベルな知識・技術を持つスタッフの育成(が図れる)

の中で、Eの充実を補完するものです。当研修室発信の呼吸器勉強会については今年度のマンユフェスト通り、



新刊雑誌コーナー

呼吸療法認定士のテキストに沿って行っています。今後もちろんこれに関連する図書や資料の充実を続けていく予定です。医療教育研修室はスタッフの皆さんの「知りたい」欲求に応え続けたいといけません。皆さんが医療教育研修室を学習・研究の場所としてうまく利用していただくことで、我々の目指す教育の双方化も図れると考えています。



大型プリンタ

日々の業務でお疲れのこと、重々承知しておりますが、まずは新しい医療教育研修室を見にきてくださいお待ちしております！

H 21年度 呼吸器疾患勉強会予定表

	日	程	内	容	講	師
H21	4/7	(火)	呼吸管理に必要な解剖と整理		門脇	医長
	5/12	(火)	呼吸不全の病態把握		池田	医長
	6/2	(火)	呼吸管理の実際		門脇	医長
	7/7	(火)	酸素療法機器・人工呼吸器装着体験会		笠置	臨床工学士
	8/		休み			
	9/1	(火)	呼吸リハビリの実際・呼吸介助手技練習		リハビリ	テーション科
	10/6	(火)	血液ガス分析の解釈		木村	医長
	11/10	(火)	症例検討会 I		関係	職種
	12/1	(火)	呼吸疾患の画像読影のコツ		門脇	医長
H22	1/5	(火)	排痰コントロールの実際		松岡	師長・石川師長
	2/2	(火)	呼吸器疾患術後の管理		5階	病棟看護師
	3/2	(火)	症例検討会 II		関係	職種

平成21年度「1階・2階・3階病棟合同文化祭」を開催しました！

療育指導室 主任児童指導員 ^{なかしまよしひろ} 中島由博



コンサート風景

今年も10月4日(日)に「文化祭」を開催しました。今年是新病棟移転に伴う病棟の再編、また準備期間が短いこと、新病棟から体育館やデイケア棟が遠いこともあって、新しい動き方(場所ややり方)を模索しました。

そこで、作品展示を終日、新作業棟の作業室や通路を使って行いました。重症心身障害児(者)の患者さんは、作業室の中に今年度のグループ活動や個別活動の紹介と、陶芸作品や作業療法で制作された作品を展示し、来場された方々に見ていただきました。一方で筋ジストロフィーの患者さんは、オリジナルデザインのTシャツや、手芸と七宝焼き、更にはソーイングやコンピューターグラフィック(CG)の作品と療育活動紹介等々を展示しました。日曜日の朝からでしたが、沢山の御家族



作品展示

や近隣の方が来場され鑑賞していただきました。

またお昼からは【ミュージックミミ】という音楽グループを呼んで、各病棟の食堂兼デイルームを会場に3階病棟から2階病棟へ、そして1階病棟へ移動してのコンサートをして頂きました。

3階病棟では秋の歌メドレーで「里の秋」、「もみじ」等々、目を閉じると秋の風景が浮かんでくるような歌声から始まり、今年の春まで続いたNHKドラマ『だんだん』で生まれた「いのちの歌」や、「恋のパカンス」、「赤いスイートピー」、そして「水戸黄門の主題歌」等々のホピュラーな歌が続き、そして最後の「アメイジンググレイス」で場内は、沢山の歓声と拍手に包まれました。また2階病棟でも秋の歌メドレーに加え、「明日があるさ」や筋ジストロフィー病棟の患者さんと一緒に「ひまわり」や「ハピネス」の歌が披露され、場内は最高潮に盛り上がりました。そして個室の患者さんには個別に歌声を聞いて頂きました。1階病棟では個室の皆さんへの巡回コンサートの後、今や遅しと待っている患者さんへ特別メニューの「赤いスイートピー」や「恋のパカンス」などが披露され、場内の歓声の渦の中、コンサートは終了しました。



作品展示

今年も沢山の御家族の参加とボランティアの皆さんのご協力により、秋の楽しい一時を過ごすことが出来たように思います。ありがとうございました。

しじみ会

七月七夕号 八月夏の号 九月初秋号

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 源氏さん 平家さん待つ 恋ごころ
となりの住人 落鮎を 狙う漁師 鷺もおり
やどかりさん ウロコ雲 まにまにそびえる 出雲富士
永島さん 双葉山 目指す白鷺 らしさあり
[K]さん 斐伊川で 鮎を獲った 懐かしさ
岡さん 涼を呼ぶ カラカラ鳴らし ラムネ玉
京の静さん | <ul style="list-style-type: none"> リハビリテーション科 作業療法士 ^{みつ い たか るみ} 三井貴史
ひたむきに 熱き球児や 夏の雲
けんーさん はや五回 今年も観れた 水郷祭
白イルカさん 研ぎ澄まし 時計代わりの 朝の音
ヒミコジャパンさん 青色の 空に心も 晴れ渡る
みーさん 行き帰り 遂にジャージを 許す自分
かどさん 映像に 妻子と孫の姿 涙さそう
矢島句湖人さん |
|---|--|

「島根県筋ジストロフィー在宅療育キャンプ」開催

療育指導室 療育指導室長 よし おか きょう いち
吉 岡 恭 一

当院が筋ジストロフィー患者さんの在宅支援の一環として協力している、日本筋ジストロフィー協会島根県支部主催の「在宅療育キャンプ」が、鳥取県の大山ロイヤルホテルを会場に、10月17日(土)～18日(日)の2日間にわたり開催されました。今年は筋ジストロフィーの遺伝子治療研究の世界的権威である、国立精神・神経センター名誉院長 埜中征哉先生をお招きし、地元からは鳥取大学医学部脳神経小児科教授 大野耕策先生のご参加も頂きました。当院からは、下山リハビリテーション科医長、齋田小児科医長、百崎小児科医師を始め、看護、リハビリ、そして療育指導室スタッフの合計12名が協力スタッフとして参加しました。遺伝子治療に関するご本人やご家族の関心も高く、17名の対象者が参加。ご家族やボランティア、スタッフを合わせると57名という大規模な療育キャンプとなりました。

一行は、松江市の福祉バスを含む車両8台に分乗し、当院敷地内にある松江訓練センターを12時に出発しました。まず目指したのは「大山みるくの里」。レクリエーションも参加者の大きな楽しみです。大山で下車すると、さすが平野部とは比べることのできないぐらいの肌寒さです。にもかかわらず、みなさんこぞって名物のソフトクリームを味わっていらっしゃいました(寒っ!)。15時に大山ロイヤルホテルに到着し、まずは入浴タイムです。参加者の方はめったに味わうことができない「温泉」を楽しむことができました。

16時30分からは、「筋ジストロフィー治療研究の進歩」と題した埜中先生のご講演を頂きました。大野教授には、鳥取大学脳神経小児科の大先輩にあたる埜中先生のご講演の座長を務めていただきました。専門的で難しい遺伝子治療についてのお話でありながら、ユーモアを交えた

分かりやすいお話は、世界の最先端医療の一端を実感できた研修でした。特にご講演中に見せていただいた「筋ジストロフィー犬」が治療を受けられるようになった動画には、参加者一同から「おお～」という歓声がわき上がりました。研修会の後、大人の方は下山医長が、子どもの方は埜中先生、大野教授、齋田医長が中心となり、5組の方の個別相談をお受けしました。その中で「もう一度自分の足で歩きたい」と言った子どもさんの言葉は、スタッフの心に深く染みこみ、これからの治療・研究に決意を新たにするものとなりました。その後懇親会、二次会と進み、朝まで語り明かしたグループもあったようです。

二日目は、日吉津のジャスコでショッピングを楽しみ昼食をすませ、14時30分に来年の再会を約束し松江訓練センターで解散となりました。レクリエーションも含め埜中先生には全日程同行していただきました。

遺伝子研究の進歩により、近年筋ジストロフィーの治療研究が飛躍的に進み、デュシェンヌ型を中心にもうすぐ治験の段階に入ろうとしています。一日も早く治療法が確立されるようお願い、患者さんを中心に、医療機関のスタッフ、研究者、そしてご家族が一つのチームであることを実感した二日間でした。



全体写真

独立行政法人国立病院機構中国四国ブロック スキルアップ研修会を終えて

リハビリテーション科 理学療法士 こん どう まさ き
近 藤 雅 揮

9月26・27の両日、岩国医療センター研修棟で開催された研修に参加して来ました。今回の研修では、たくさん同期の人達や先輩達と一緒に学び、今後の臨床活動をより豊かなものにしていく励みになりました。

研修は、受講対象者の経験年数が3年未満ということもあり、張りつめたような緊張した空気のなかで始まりましたが、多くの時間を実技に充てられていたため、講師の先生と受講生みんなであらゆる交流を持ちながら研修は進み、次第に雰囲気も和やかになりました。

研修中の様々な項目の中で、呼吸器系の臓器を体表面から作図する課題に取り組んだことがとても印象的でした。呼吸理学療法に携わる医療従事者として、臓器の位置関係を体表から確認できなければならないということ

で、白いTシャツに着替え、その上にマジックで気道や肺、心臓を描くことになりました。触診の方法すらあやふやな私たちは、お互いに有りったけの知恵をふりしぼり、時には周囲の様子に目を向けながら(?)作業を進めました。出来あがった作品は、思うようなものではなかったけど、作業を通して新しく知ることが多く、研修の最後には、「やりきった」という気持ちで満たされました。

研修から数週間が経ち、今なお多くの課題を抱え臨床に当たっているところですが、研修会に参加したみんなも同じような悩みを抱えながら頑張っていると思うと、前向きな気持ちになれます。一日も早く一人前のセラピストに成長するよう、邁進しなければと思う毎日です。

●●● 松江医療センター元気宣言！ ●●●

～第3回健康フェスタ～

管理課 給与係 地田 浩二

平成21年9月26日(土)に松江サティにおいて「健康フェスタ」を開催しました。平成19年からスタートしたこの催しも今回で3回目となります。



会場の様子

さて、当日は土曜日の昼下がりということもあって松江サティには多くのお客さんが来店しておられ、「健康フェスタ」の看板を見つけると「無料で測ってくれるの?」、「お薬の相談もよろしいかしら?」などと多くの方々に興味を持っていただきました。



体内脂肪測定中

今回から新たなピアーナル用アイテムとして病院名入りジャケット(写真参照)を作成しました。これは当院の筋ジス患者さんで作るTシャツ作成グループ「デザインクローゼット」にて製作してもらったものです。

やはりユニフォームがあるとより一層一体感が高まり、良い雰囲気準備に取りかかることが出来ました。スタッフも初めての手作りユニフォームに驚きつつもそれを身にまとい意気揚々としていました。徳島院長も持参した白衣を脱ぎ「わしも着るぞ!」。(写真が無いのが残念ですが・・・)

当日はスタッフとして看護部・医局・検査科・薬剤科・事務部・指導室などから大勢の参加があり、骨密度計などの医療機器の使用に際して各医療機器業者の方にも応援に駆けつけていただきました。



気合い入っちゃってます

さて、お昼どきの12時前に受付がスタートするとたちまち多くの方が会場に訪れ、あっという間に満員になり

ました。こちらも3回目ということもあって準備から受付、測定までスムーズにでき、

医療相談：70件
お薬相談：9件
栄養相談：16件
肺機能測定：125



医療相談の木村医長と荒木医長

件 体成分分析測定：65件 骨密度測定：144件という結果でした。

普段こういった事に接する機会が少ない若い方も多く来場され、興味深そうに測定結果表を見られていました。

また、松江サティさんには第1回目よりご協力いただき、今回も会場借用の依頼を快く引き受けていただきました。大型商業店舗の協力はこのようなイベントを開催するうえで欠かせないことだと思います。来年もさらにピアーナル用アイテムを増やすなどパワーアップをし、スタッフ丸となってひとつの「FESTIVAL!」を盛り上げたいと思います。



今シーズン初めての寒波がやって来た11月2日(月)の朝、鮮やかな虹が出ていました。これは病院の東側から撮った写真ですが、ご覧のとおり綺麗に撮れています。

病院に架かる七色の虹。何か良いことがあるといいですね。

(Photo: 呼吸器科 木村雅広)

外来診療表

お気軽にご相談下さい

平成21年4月1日～

診療科	日	月	火	水	木	金	専門領域
呼吸器内科	日	矢野	小林	木村	門脇	池田	【呼吸器内科】 竹山 博泰 矢野 修一 池田 敏和 小林 賀奈子 木村 雅広 門脇 徹 若林 規良 石川 成範 【副院長】呼吸器一般・アレルギー 【統括診療部長】呼吸器一般(肺循環・肺がん・結核他) 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般・アレルギー 呼吸器一般
	月	若林	若林	竹山	竹山		
循環器内科	火		門脇	池田	矢野	小林	【循環器内科】 石川 成範 循環器内科一般
消化器内科	水					石川	
神経内科	木				足立		【消化器内科】 石原 孝之 三原 修 消化器内科一般 消化器内科一般
外科	金					荒木	
	土	徳島		目次		荒木	【神経内科】 足立 芳樹 下山 良二 神経内科 神経内科・リハビリテーション
日	高木		中井		荒木		
小児科	月	久保田(予約)	齋田(予約)	齋田(予約)	久保田(予約)	齋田(予約)	【外科】 徳島 武 目次 裕之 荒木 邦夫 高木 雄三 中井 勲 【院長】呼吸器外科・胸腔鏡下手術(肺癌・自然気胸他) 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科
	火	齋田	久保田	久保田	齋田	久保田	
発達専門外来	水		(予約)				【小児科】 齋田 泰子 久保田 智香 重度心身障害・小児神経・摂食機能障害 発達障害・重度心身障害
予防接種	木						
肺がん検診	金	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	【麻酔科】 木下 謙 麻酔科標榜医・一般外科
睡眠時無呼吸外来	土				呼吸器科 担当医(予約)		
息切れ外来	日		呼吸器科 担当医(予約)				診療時間 8:30~17:15 受付時間 8:30~11:30 自動再来受付 7:30~11:00
喘息アレルギー外来	月			竹山(予約)	竹山(予約)		
咳嗽外来	火			竹山(予約)	竹山(予約)		独立行政法人 国立病院機構 松江医療センター 呼吸器病センター 〒690-8556 松江市上乃木5丁目8番31号 電話 (0852) 21-6131(代) 医療連携室直通電話 (0852) 24-7671 医療連携室 F A X (0852) 24-7661
禁煙外来	水			竹山(予約)	竹山(予約)		
アスベスト外来	木			竹山(予約)	竹山(予約)		シンボルマーク
嚔下障害外来	金						
神経難病外来	土		下山		足立		
筋ジストロフィー専門外来	日				下山(予約)		
セカンドオピニオン外来	月	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	

小児科発達専門外来	診療日：毎週月～金曜日 内容と特色：ことばや運動の発達の遅れ、低身長などの発育の異常、ひきつけ、などの疾患に対する診断・治療療育相談を行っています。投薬、理学療法など通常治療のほかデイケアでの遊戯療法も行っています。
肺がん検診	診療日：毎週月～金曜日 15:00～16:30 (要予約) 内容と特色：ヘリカルCTを使用し、小さな肺がんも発見できます。料金5,250円(+喀痰検査6,300円税込み)
睡眠時無呼吸外来	診療日：毎週木曜日 14:00～16:00 (要予約) 内容と特色：いびき、睡眠時無呼吸症候群の診断治療を行います。
息切れ外来	診療日：毎週火曜日 13:00～15:00 (要予約) 内容と特色：息切れの診断と治療を行います。
喘息アレルギー外来	診療日：毎週水・木 9:00～12:00 (要予約) (日本アレルギー学会専門医・指導医が担当) 内容と特色：成人気管支喘息・花粉症。個人個人に合わせた予防法、日常生活指導から最新の治療まで。
慢性咳嗽外来	診療日：毎週水・木 9:00～12:00 (要予約) (咳嗽研究会会員が担当) 内容と特色：3週間以上長引く、咳(せき)や喉の異常感でお悩みの方。声楽家・アナウンサー・教師など声を重要な手段とされる方の悩み。
禁煙外来	診療日：毎週水・木 9:00～12:00 (要予約) (日本呼吸器学会専門医・指導医が担当) 内容と特色：禁煙を志す方の検査、診断と相談に応じます。
アスベスト外来	診療日：毎週水・木 8:30～11:00 (要予約) (日本呼吸器学会専門医・指導医が担当) 内容と特色：石綿(アスベスト)曝露による肺障害を発見するための検査と診断を行います。
嚔下障害外来	診療日：毎週火曜日 8:30～ 嚔下障害外来 (要予約)
神経難病外来	診療日：毎週火・木 8:30～ 神経難病外来
筋ジストロフィー専門外来	診療日：毎週木曜日(予約=指導室まで) 8:30～ 内容と特色：筋ジスト病棟医が診療に当たります。診断から在宅ケアのための医療や介護・福祉サービスの紹介など専門的、総合的外来です。在宅患者に必要な定期的精査短期入院(筋ジストック)も受け付けています。
セカンドオピニオン外来	診療日：完全予約制 紹介状が必要です。 内容と特色：呼吸器・呼吸器外科・神経内科・小児科(筋ジスト)の専門医(医長)が担当致します。